

チェコの多年制ギムナジウムに関する考察

過熱する入学試験の実態から

石倉 瑞恵¹

要 旨

チェコにおける多年制ギムナジウムの特質を入学試験の実態から明らかにした。市民革命後、数々の学校がギムナジウムとして再編された際に、多年制ギムナジウムが多く設置された。しかし、多年制ギムナジウム生徒数には上限が設けられており、とりわけ8年制ギムナジウムの受験倍率が高い。ただし、学校間の人気の差も著しい。進学率の高さや数々の業績を誇る等、何らかのメリットがあるギムナジウムに人気が集まっている。人気の高いギムナジウムへの鍵は、チェコの受験文化や8年制ギムナジウムの試験問題から検討すると、受験者の社会・経済的環境にある。同質性の高い生徒集団であるからこそ、多年制ギムナジウムにおいては特異な課程の設置、高い大学進学率等が可能となっていると考えられる。

キーワード：チェコ、中等教育、多年制ギムナジウム、入学試験、受験倍率

1. はじめに

近年、チェコの学校教育はインクルーシブの方向に動いている。ジェンダー、エスニシティ、障がい要因とする教育機会の格差を是正することが目的である。

その一方で、義務教育である前期中等教育段階¹⁾には、伝統的な選抜コースが存在する。基礎学校9年間の後に4年間の後期中等教育段階に進む通常のコースとは異なり、基礎学校を5年で中退し、8年制ギムナジウムに進学するコース、および基礎学校を7年で中退し、6年制ギムナジウムに進学するコースである。8年制ギムナジウム、6年制ギムナジウムは多年制ギムナジウム²⁾と言われる。優秀な生徒を早期に選抜して、特別な教育機会を提供しているので、公教育の公平性、機会の平等という観点から批判されることもある。

しかし、チェコ国内では多年制ギムナジウムを支持する教員、国民が多く、人気はうなぎのぼりである。多年制ギムナジウムの入学試験は熾烈な競争を呈している。本稿の目的は、多年制ギムナジウムの特質を入学試験の実態から明らかにすることである。

本論では、チェコの中等教育段階におけるギムナジウムの位置付け、多年制ギムナジウムの設置形態、多年制ギムナジウムに関する先行研究から得られる知見、多年制ギムナジウムの成立と受難・発展

の歴史を明らかにした後に、2024年度入学試験(2024年4月実施)の実際に基づき、8年制ギムナジウム入学試験の過熱現象をとらえる。全国のギムナジウムの入試倍率を用いて、地域的特性、高倍率校の学校特性を分析し、8年制ギムナジウムに志願者が集中する要因について検討する。

2. チェコのギムナジウム

(1) 中等教育段階への進路

チェコの後期中等教育段階には、ギムナジウム、中等技術学校、中等職業学校の3種類の学校がある。ギムナジウム、中等技術学校は、大学等高等教育機関への進学要件となる中等教育修了資格の取得が可能な学校である。ギムナジウムが日本の普通科に相当するのに対し、中等技術学校は、例えば理系科目に特化した課程を提供する等、日本で言う専門科に相当すると考えられる。中等職業学校では、職業資格の取得が可能であるが、中等教育修了資格を取得することはできない。

通常は、基礎学校9年次に入学試験を受験して、ギムナジウム、中等技術学校、中等職業学校等に進学する。いずれも4年間の課程である。志願者数で見ると、3つの学校種のうち4年制ギムナジウム志願者が過剰であり、その他の志願者数は、学校定員とほぼ一致している。

多年制ギムナジウムは、基礎学校在学中に入学試験を受験する学校群である。6年制ギムナジウムは、基礎学校7年次で入学試験を受験する。例年、定員

¹ 石川県立大学 生物資源環境学部 教養教育センター

責任著者：石倉 瑞恵 (ishikura@ishikawa-pu.ac.jp)

2,500 人弱に対して、8,000 人近くが出願する。8 年制ギムナジウムは、基礎学校 5 年次で入学試験を受験する。例年、定員 1 万人に対して 2 万人近くが出願する（Centrum pro zjišťování výsledků vzdělávání, 2024b）。ギムナジウム、とりわけ多年制ギムナジウムには激しい受験競争が伴う。

(2) ギムナジウムの設置形態

ギムナジウムの設置形態は多様である。ギムナジウム 4 年制のみを設置している学校もあれば、8 年制のみを設置している学校、4、6、8 年制の併設、あるいは 6、8 年制併設の学校もある。また、ギムナジウムのみを設置している以外に、中等技術学校、中等職業学校、基礎学校を併設している場合もある。したがって、4 年制ギムナジウム設置学校は 287 校、6 年制ギムナジウム設置学校は 69 校、8 年制ギムナジウム設置学校は 269 校（2019 / 2020 年）であるが、併設している学校が多いので、チェコ全国のギムナジウム数は、それらの合計より少ない 355 校となっている（Český statistický úřad, 2020）。なお、4 年制と 8 年制を設置しているギムナジウムの場合、4 年制と 8 年制は別コースであり、4 年制ギムナジウムへの進学者は、基礎学校修了後に 8 年制ギムナジウムに編入するわけではない。

ギムナジウムは設置者別で、公立（州立）、私立、教会立に分類される。公立の場合は無償、私立、教会立の場合是有償である。表 1 は、設置者別ギムナジウム数と生徒数を示したものである。公立の学校数と生徒数が圧倒的に多いことがわかる。私立は、特別なニーズのある生徒に対応する学校であることが多いので、チェコの中等教育機関は公立、無償が主流であると言ってよい。また、ギムナジウムの中には、スポーツに特化したり、バイリンガル教育を行ったり、外国語を教授用語とするギムナジウムもある。スポーツに特化したギムナジウムでは、一学年数人からなる少人数教育を行っている。

表 1 設置者別ギムナジウム数と生徒数
(2019 / 2020 年)

		公立	私立	教会立
学校数		272	63	20
学級数		3,991	646	257
生徒数 (人)	4 年制	43,620	3,304	1,718
	6 年制	10,957	1,908	503
	8 年制	56,610	7,228	4,877
	合 計	111,187	12,440	7,098

出典：Český statistický úřad, 2020. より作成。

3. 多年制ギムナジウムに関する先行研究

(1) 志願理由と基礎学校への影響

Holubová (2009), Dostálová (2010), および Vágnerová (2010) は、基礎学校を中退して早期に多年制ギムナジウムを志願する理由を明らかにしている。それらによれば、多年制ギムナジウムへの志願は、保護者の希望、子どもが自ら希望する場合の両方のケースがあるが、選択の理由は多年制ギムナジウムに基礎学校とは異なるメリットを認めているからである。志願者が考える多年制ギムナジウムのメリットとは、環境のよさ、教師の質、施設の充実、大学への進学の可能性の高さ、才能の伸長の機会、才能ある同級生に恵まれること、ギムナジウムへの移行問題を早期に解決する点である（Vágnerová, 2010, 74-75）。

これらの先行研究の中では、多年制ギムナジウムに生徒が流出したことが基礎学校第二段階（6 年生 - 9 年生）に及ぼす影響についても言及されている。ギムナジウム進学者が基礎学校から抜け出ることの問題は、才能ある生徒を失うこと、5 年かけて作り上げた学習集団が崩壊してしまうことである。優秀な生徒が抜けてしまった第二段階の授業は、運営が難しくなり、質が低下することもある。また、8 年制ギムナジウムの受験に失敗した生徒が、6 年制ギムナジウムを受験するまでの間、学びの姿勢に困難が生じてしまうという問題もある。逆に、基礎学校第二段階が少人数教育になるので、教育効果が高くなることもある（Holubová, 59-62）。

(2) 多年制ギムナジウムにおける教育成果

Palečková ら (2007), Tomášek ら (2008), および Sucháček (2014) は、TIMSS, PISA 等の国際学力調査³⁾やチェコ国内で実施された共通テストの結果分析を通して、多年制ギムナジウムの生徒の到達度が基礎学校同学年の生徒よりも高いと指摘している。

1997 年から 2007 年にかけての TIMSS の調査結果では、多年制ギムナジウム生徒の成績は、一貫して基礎学校生徒の成績を上回っている。国際調査におけるチェコの位置付けは年々低下しているものの、ギムナジウム生徒の成績低下は比較的小さい（Sucháček, 2014, 147）。また、2000 年、2003 年、2006 年、2009 年、2012 年 PISA の調査結果では、多年制ギムナジウム生徒の成績が基礎学校生徒の成績を大幅に上回っていた（Sucháček, 2014, 148）。しかし、PISA2003 年と 2006 年の調査では、成績上位 10 % のうち 3 分の 1 以上を基礎学校生徒が占めており、基礎学校の到達度が必ずしも低いというわけではなかった（Sucháček, 2014, 149）。

Cermat（教育到達度判定センター、Centrum pro

zjišťování výsledků vzdělávání のプロジェクト) が 2005 年から 2008 年にかけて、および ČSI (チェコ学校監査局, Česká školní inspekce) が 2012 年に実施した全国統一試験の結果においても、多年制ギムナジウムの成績が大幅に上回っていることが示された (Sucháček, 2014, 148)。

しかし、このようなギムナジウムと基礎学校との到達度の差は、それぞれの学校教育の質の相違によるものではないことが、CLOSE (チェコの教育に関する横断研究, Czech Longitudinal Study in Education) ⁴⁾ により明らかにされている。この調査グループは、2018 年に、基礎学校 9 年生の生徒と 8 年制ギムナジウム 4 年生の生徒を対象として ⁵⁾、数学とチェコ語の試験を実施した。成績分布を見ると、数学とチェコ語の両方において、ギムナジウム生徒の約 70 % が成績上位を占めているのに対し、基礎学校生徒に占める成績上位者の割合は 30 % 弱程度であった。一方で、対象生徒を家庭の社会・経済的環境 (親の学歴、職業種、家庭内の蔵書数等の組み合わせ) に基づいて 5 グループに分類したところ、上位グループに属する生徒はギムナジウムでは 70 % 程度、基礎学校では 30 % 程度であった。下位グループに属するのはギムナジウムでは 20 % 弱、基礎学校では 60 % 程度であった (Greger, 2017)。ギムナジウム生徒の社会・経済的環境は、基礎学校生徒よりも良好であることが示された。すなわち、CLOSE が実施した試験において 8 年制ギムナジウムの生徒の成績が高かったのは、学校が優れた教育を提供しているからではなかった。生徒の社会・経済的背景が良好であり、入学試験や入学後の学習に有利な背景を得ているためである。また、基礎学校においても成績上位を 30 % 弱が占めているので、基礎学校での到達度が必ずしも低いわけではないと考えられる。この調査グループの結論の一つ、8 年制ギムナジウムの入学試験は、家庭の社会・経済的環境、あるいは文化資本を選抜しているに過ぎないという結論は、それまでの 8 年制ギムナジウム・メリット論を揺るがすような影響を及ぼしている。

4. 多年制ギムナジウムの歴史的背景

(1) ハプスブルク帝国時代から第一共和国時代へ

ハプスブルク帝国チェコ領内における最初のギムナジウムは 1556 年に設立され、ギムナジウムを卒業することが、大学入学、国家行政機関への就職の必須条件になった (Sucháček, 2014, 140)。

1775 年の普通教育法 (1774 年) 改正により、ギムナジウムは国立のみの設置となり、有償、5 年制学校と規定され、入学試験が導入された。当時、ギムナジウムへの進学者は同年齢人口の 1 % にすぎなかった (Sucháček, 2014, 140)。1849 年には 8 年制ギムナ

ジウムが創設された。5 年制ギムナジウム、8 年制ギムナジウムいずれの場合も、最後の 2 年間は大学進学のための予科に位置付けられていた。この時から、大学入学のための中等教育修了資格試験が導入された。1869 年には基礎学校が 8 年制になったので、前期中等教育段階には基礎学校と 8 年制ギムナジウムの 2 種類の学校系統が存在するようになった。

チェコスロバキア独立後の第一共和国時代 (1918 - 1938 年) も、2 種類のギムナジウムを擁する制度は変わらなかった。ギムナジウム進学者は、2 % 程度であったが (Sucháček, 2014, 142)、ギムナジウム修了者の割合はさらに低かった。なぜなら、ギムナジウムでは上層階級出身の生徒が主流であり、その文化レベルに適応できなかったり、高額の授業料を支払うことができない生徒は、ドロップアウトせざるをえなかったからである。卒業できない生徒は、最大で 60 % も存在した (Sucháček, 2014, 142)。ギムナジウムを修了する要は、学業が優秀であることではなく、上層階級出身者であることにあった。この頃から、中等教育修了資格試験を実施する唯一の学校種であるギムナジウムが、上層階級出身者以外を大学進学への道から振り落としているとの批判が生まれた。

(2) 戦後および社会主義政権期

第二次世界大戦後、ギムナジウムに対する批判が大きくなった。ギムナジウムは上層階級のための学校であり、総合制学校を設置しようとする声も上がった。しかし、多年制ギムナジウムを擁立する立場は依然と強く、総合制学校の導入は現実的ではなかった。学校関係者を中心として、才能ある生徒が十分に成長するためには多年制ギムナジウムが必要だとする意見が多かった (Sucháček, 2014, 142-143)。

古きよき第一共和国の遺産である多年制ギムナジウムを解体したのは、社会主義政権 (1948 - 1989 年) である。社会主義は、ブルジョワ文化を廃して唯一の供給主体 (国家) による平等なシステムを構築することを目指したため、特権的な教育組織であるギムナジウムは迫害の対象となった。1948 年には、義務教育段階を基礎学校に一本化して、8 年制ギムナジウムを廃止し、ギムナジウムを 4 年制のみとした。また、社会主義政権は普通教育よりも職業教育に重きを置いたので、1953 年には普通教育を行う 4 年制ギムナジウムはすべて廃止された。1968 年には 4 年制ギムナジウムのみを普通教育機関として再開させたが、1984 年には、ギムナジウムは普通教育機関ではなく、職業教育機関になった。カリキュラムには、工学、農業生産、建設、経済、化学技術、プログラミ

ングなどの基礎科目が追加された（Sucháček, 2014, 143）。

(3) 1989年市民革命後

1989年市民革命以降、社会のあらゆる分野において、改革の目的は社会主義政権の過ちを正すことであり、学校教育においても同様であった。第一共和国時代の民主的なチェコスロバキアの状態に戻ることが、この目標を達成する方法だと考えられていた（Sucháček, 2014, 143）。多年制ギムナジウムが階級を選別する役割を果たしているとの議論は皆無ではなかったが、民主主義が育んだ伝統であり、戦前の社会的評価も高かった8年制ギムナジウムの復活を多くの立場の人が歓迎したと言えるであろう。

1990年学校教育法（školský zákon）において、多年制ギムナジウムが教育制度に復活し、8年制、6年制に加え、7年制、5年制のギムナジウムまでが設置可能になった。公立のみならず、私立学校や教会立学校の設立も認められた。1995年の学校教育法改正時に、義務教育である基礎学校9年間が5年間（第一段階、初等教育段階）＋4年間（第二段階、前期中等教育段階）の二段階に定められると、それに合致するように7年制、5年制ギムナジウムは廃止され、義務教育の第二段階から進学する8年制ギムナジウムと義務教育第二段階の途中から進学する6年制ギムナジウムの2種類のみを多年制ギムナジウムとして認可することになった（Vágnerová, 2010, 33）。

市民革命後のギムナジウム、多年制ギムナジウムの増加は著しかった。表2を見ると、1992／93年から1996／97年までのわずか数年間に多年制ギムナジウム学校数、生徒数が著しく増加していることがわかる。社会主義政権期には職業教育機関として生き延びていた数々の学校がギムナジウムとして改編されたからである。この際に、多くの学校が4年制に加えて多年制ギムナジウムを併設した。

表2 1990年以降の多年制ギムナジウム

年	学校数	生徒（人）	入学者（人）
1992/93	220	24,503	8,153
1994/95	307	51,086	14,262
1996/97	332	77,624	15,046
2005/06	337	85,943	12,118
2008/09	346	85,714	11,583
2011/12	347	82,925	11,412

出典：Sucháček, P, 2014.

一方で、チェコ国外、とりわけOECDからは、多年制ギムナジウムの選抜的性格が、国際的なインクルーシブの潮流、総合制学校の創設に向かう欧米諸国の動向から逸脱しているとの見解が示された。その指摘に対応し、多年制ギムナジウム生徒の増加を制限する策が講じられた。1996年には、多年制ギムナジウムの生徒数を地区人口の9%（2005年以降は10%）に制限する省令が出された（Vágnerová, 2010, 34）。また、教育青年スポーツ省（Ministerstva školství, mládeže a tělovýchovy）も、多年制ギムナジウムを段階的に廃止することに乗り出し、2001年には多年制ギムナジウム廃止を盛り込んだ新教育法案を起草した。結局は採択されなかったが、その代わりとして、2004年学校教育法では、基礎学校の第二段階と多年制ギムナジウム低学年について、統一基準、すなわち同一カリキュラム、同一授業時数を適用するとの規定を設け、両者の教育の質に格差が生じないように配慮がなされた（Vágnerová, 2010, 37）。

5. 8年制ギムナジウムの入学試験

現在、二種類の多年制ギムナジウムが存在するが、6年制ギムナジウムは8年制ギムナジウムの入学試験で機会を逃した生徒がチャレンジする学校群としてとらえられる傾向にある。前述したように6年制ギムナジウムは69校、8年制ギムナジウムは269校であり、学校数には歴然とした違いがある。そこで、8年制ギムナジウムに焦点を当て、その入試の実態を明らかにしたい。基礎学校5年生（11歳）で受験する入試問題の内容、地域（州）および学校毎の受験倍率の相違、受験倍率の高いギムナジウムの傾向等から明らかにする。

(1) 基礎学校5年生が受験する入試問題

2008年の学校教育法改正以来、中等教育機関への出願は、一人3校までが可能である。各学校は、少なくとも2回試験を実施しなければならない。チェコの新年度は9月始まりであり、前年度の4月に次年度に向けた入学試験が実施され、5月には合否が発表される。8年制ギムナジウムのみならず、4年制ギムナジウム、6年制ギムナジウム、そして中等技術学校、中等職業学校も同時期に試験を実施する。ギムナジウムは、4年制、6年制、8年制それぞれの統一試験、教育到達度判定センターの統一試験を用いて試験を実施する。平均的な試験科目と配点は数学50点、チェコ語50点、基礎学校内申点6点である。学校によっては、英語を30点から50点の配点で課す場合がある。

試験は問題数が多い。2024年4月第一回実施の

チェコ語試験を見てみると、50問中、短記述7問、記号選択43問であった。詳細は以下の通りである（Nový Amos, 2024）。

- ①詩：1題（内容の一致、韻、単語間の関係）
- ②長文：4題（空欄に入る文章、長文から得られる結論、内容正誤、指示代名詞の指し示すもの、文章の意味、誤表記の単語、代名詞の抽出、文の言い換え、単語の意味、単語の品詞）
- ③文法：11題（基本構文、正しい単語表記、名詞の性と格、単語と文法の修正、述部の修正）
- ④短文：2題（修辞、文意が通るように並べ替え）
- ⑤図：1題（正しい説明との照合）

いずれの出題においても、非常に詳細な文法、名詞や形容詞の格変化を問う問題が多い。チェコ語の文法が難しいからでもあるが、入学の条件として十分な言語操作能力が求められていることが分かる。

なお、例年、出題傾向は大きく変わらないので、受験生は十分に試験対策をすることができる。受験生は、志望するギムナジウムで入試直前講座を受講したりして対策をする。しかし、日本の受験生のように緻密な受験勉強をしているわけではない。11歳という年齢を考慮に入れば、習慣的、経験的積み重ねが成功要因になっていると考えられる。例えば、文法対策の決め手は、各家庭で日常的に正しい

チェコ語に触れているか否かにあると言える⁶⁾。

（2）受験倍率から見る入学試験の実態

2024年度の8年制ギムナジウム入学試験に関して、教育到達度判定センターが公表している各学校の定員、志願者数を元に、チェコ全土の8年制ギムナジウムの受験倍率を算出し順位付けした。その結果、以下の知見が得られた。

受験倍率には地域差が大きく、とりわけ大都市において8年制ギムナジウムの倍率が高い。図1は、州ごとの8年制ギムナジウムについて、第一志望から第三志望までを含めた総志願者数に基づいて算出した最低倍率校の倍率と最高倍率校の倍率を示したものである。最高倍率は、南モラビア州にあるギムナジウムの18.5倍である。南モラビア州に次いで高倍率のギムナジウムがある州、および該当州における最高倍率を挙げると、首都プラハ16.17倍、中央ボヘミア州11.33倍、オロモウツ州10.61倍である。これら4州における8年制ギムナジウムの受験倍率は、全ギムナジウムを通して他の州よりも高い傾向にある。首都プラハにはプラハ、南モラビア州にはブルノというチェコの二大都市があり、オロモウツ州にはオロモウツというチェコ第三の都市がある。この3都市には歴史ある総合大学も多い。南モラビ

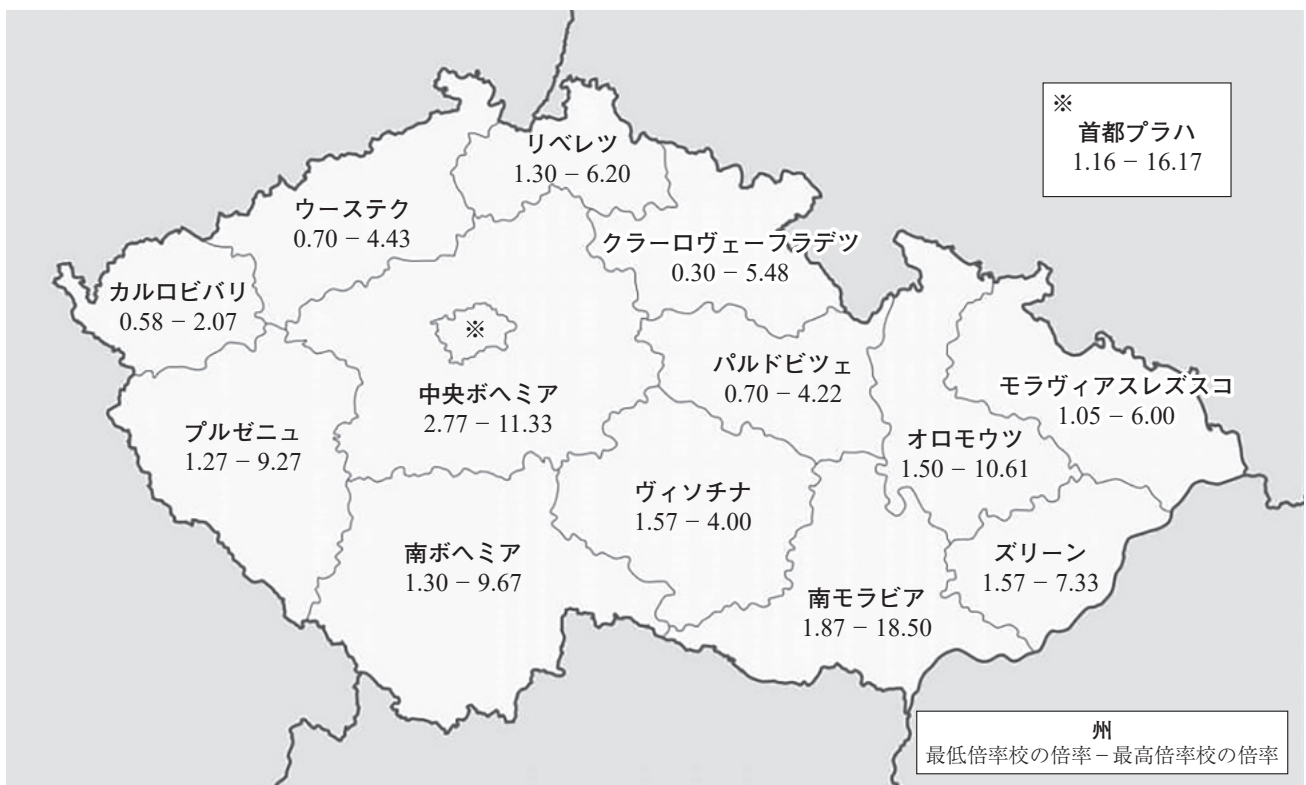


図1 州別8年制ギムナジウム受験倍率（2024年）

出典：Centrum pro zjišťování výsledků vzdělávání, 2024a. より算出。

注：入試倍率は、各学校の第一志望から第三志望を含めた総志願者数と定員から算出した。州名の下に「最低倍率校の倍率 - 最高倍率校の倍率」で示した。

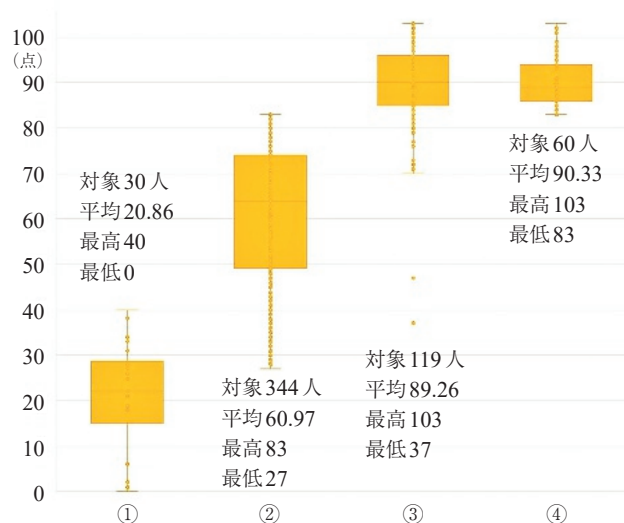
ア州 18.5 倍のギムナジウムはブルノにある B ギムナジウム（後述）であり、マサリク大学、ブルノ工科大学という歴史ある総合大学のある地域に立地している。大都市であること、大学が多い州であることは、8 年制ギムナジウムへの志向性を高める一つの要因である。

一方で、最高倍率のギムナジウムが 2.07 と最も低いのは西の国境にあるカルロビバリ州である。しかし、より首都圏から離れた国境の州であるグリーン州には、7.33 倍のギムナジウムがあり、辺境の州であっても必ずしも倍率が低いわけではないことがわかる。学校文化、受験・進学文化には地域性があるので、8 年制ギムナジウム志向の州もあれば、4 年制ギムナジウム志向の州もある。

また、図 1 を見れば、首都プラハや南モラヴィア州であっても、すべての 8 年制ギムナジウムが高倍率というわけではないことがわかる。最低倍率を見ていくと、首都プラハで 1.16 倍、南モラヴィア州で 1.87 倍の学校があり、さらに、クラロヴェーフラデツ州では 0.3 倍、カルロビバリ州では 0.58 倍、ウーステク州、パルドビツェ州では 0.7 倍と、第一志望から第三志望を含めた総志願者数での倍率にもかかわらず、定員割れをしている学校があることがわかる。なお、倍率上位層のギムナジウムは公立が占め、下位層は私立が占めている。例えば、プラハでは、第一志願者のみの倍率で見ると、1.6 倍以下（11 校）についてはすべて私立のギムナジウムである。

(3) 平均的な受験倍率校における点数分布

入学試験における合格者、不合格者の点数分布を、平均的な受験倍率のギムナジウム、首都プラハにある 9.17 倍の A ギムナジウム（首都プラハの倍率平均は 7.73 倍）を例として見てみる。A ギムナジウムは 1934 年創基の公立伝統校で、4 年制、6 年制、8 年制ギムナジウムを併設している。8 年制の定員は 60 名、志願者数は 553 人であった。合格発表では、受験者を、①入学条件を満たしていないため入学を認めない（30 人）、②定員オーバーのため入学を認めない（344 人）、③志願順位の高い学校へ入学するので辞退（119 人）、④入学許可（60 人）の 4 つに区分している（Gymnázium Voděradská, 2024）。①と②を不合格とみなすことができるので、不合格者は 374 人である。図 2 は、総合得点 106 点満点におけるそれぞれの受験者群の点数分布を示している。それぞれの受験者群の平均点を見ると、①が 20.86 点、②が 60.97 点、③が 89.26 点、④が 90.33 点である。④「入学許可」の受験者群の平均点は非常に高得点である。その内訳をみてみると、数学（50 点満点）の平均点は 43.58 点、最高点は 50 点、最低点は 35 点で



①入学条件を満たしていないため入学を認めない。②定員オーバーのため入学を認めない。③志願順位の高い学校へ入学するので辞退。④入学許可。

図2 A ギムナジウム入学試験受験者の総合得点
(106点満点)

出典：Gymnázium Voděradská, 2024. より作成。

ある。チェコ語（50 点満点）の平均点は 41 点、最高点は 50 点、最低点は 32 点、また基礎学校内申点（6 点満点）の平均点は 5.86 点である。対して、①の内訳をみてみると、数学の平均点は 10.2 点、最高点は 28 点、最低点は 0 点、チェコ語の平均点は 7.8 点、最高点は 15 点、最低点は 0 点、基礎学校内申点の平均点は 2.79 点である。④と①の間では、とりわけチェコ語の得点に大きな差があることがわかる。なお、②の受験者群において、数学、チェコ語それぞれの最高点は 46 点、42 点であり、④の受験者群にも劣らない高得点である。チェコ語と数学のいずれかでミスすれば④群に入ることにはできない熾烈な競争であることがわかる。

(4) 高倍率の 8 年制ギムナジウムとは

8 年制ギムナジウムといえども一様ではなく、学校により人気（受験倍率）の差は激しい。それでは、高倍率の 8 年制ギムナジウムはどのような学校なのであろうか。

人気の高いギムナジウムは、8 年制ギムナジウムである上に、さらなる付加価値のあるギムナジウムと考えられる。例えば、歴史・伝統がある、大学の実験校・教育実習校に指定されている、生物・地学・地理・数学等学術オリンピックで成果を上げている、バイリンガル科目を設置している、進学実績がよい等である。チェコで最も倍率が高い南モラヴィア州ブルノにある B ギムナジウムを例として見てみる。

Bギムナジウムは1961年創基で、4年制、6年制、8年制ギムナジウムを併設している。2024年度入試では、8年制の定員はわずか30名である。6年制の定員は30名、4年制の定員は90名であるが、6年制の倍率は10.33倍、4年制は4.76倍と8年制の18.5倍ほど高くはない。

このギムナジウムの特色は、多くの生徒が語学に卓越していることである。東ヨーロッパ諸国が参加する英語コンテスト⁷⁾での一位実績が続いている。チェコでは7校しか開設されていないフランス語数学、フランス語物理学⁸⁾というバイリンガル授業も設置されている。また、大学、特に理系分野(工学、自然科学、医学、情報)への進学率が高い(Gymnázium Matyáše Lercha, 2023c)⁹⁾。2023年度の実績によれば、8年制ギムナジウムから大学等高等教育機関への合格率は93.64%である。8年制ギムナジウム卒業生30人中の29人に相当し、全員が第一志望での合格である。なお、同ギムナジウム6年制、4年制の進学率も著しいが、6年制では95%、4年制では90%と若干低い。また、合格者に占める第一志望校合格者の割合は、それぞれ89%、84%である(Gymnázium Matyáše Lercha, 2023b)。同じ学校であっても、8年制、6年制、4年制との間に成果等の相違があることがわかる。

6. おわりに

入学試験に伴う現象から、8年制ギムナジウムの特質の一端を把握した。

8年制ギムナジウムの数、新入生の数は、4年制ギムナジウムとほぼ等しいが、多くの州において、4年制ギムナジウムよりも8年制ギムナジウムの受験倍率は高い。事例としたプラハのAギムナジウムの場合、8年制では定員の6倍程度の受験者が入学を認められない。多くの家庭が基礎学校5年生で進路を検討していること、8年制ギムナジウム入試での成功は、その後の進路への大きな安堵となることを伺い知ることができる。

しかし、8年制ギムナジウムも多様であり、供給が需要を上回る州がある。また、学校間の人気の差は著しい。進学率の高さや数々の成果を誇る等、何らかのメリットがあるギムナジウムに人気が集中している。

入学試験の得点分布は、多年制ギムナジウムに関する先行研究を裏付ける知見を呈している。平均的な受験倍率のAギムナジウムの場合、合格者の平均点は90.33点(106点満点)と高得点であり、とりわけチェコ語の試験で不合格者を引き離している。ギムナジウム入試のための受験勉強は日本の受験勉強のような緻密な勉強ではないことを合わせて考慮す

ると、日常的に正確なチェコ語に触れていること等が入学試験では鍵となってくる。すなわち、先行研究で明らかにされているように、受験者の社会・経済的環境が可否の要になると考えられる。

競争を勝ち抜いた生徒により構成される高倍率のギムナジウムでは、教師が理想の授業を展開することができるという¹⁰⁾。バイリンガル授業を実施する等、実際にそれらのギムナジウムの教育の質は高いのであるが、それは、選抜を勝ち抜いた優秀な生徒により構成される、同質性の高い集団という前提の上で成り立つ授業である。社会・経済的環境が良好な生徒に対して特別な教育機会が開かれていると問題提起する先行研究を裏付けていると言えよう。

チェコにおける社会主義のインパクトは大きい。この30年余り、社会主義政権期に否定されてきた学校と教育の自由を取り戻すことを一義に教育改革が進められた。今後も現状を守り続ける姿勢は変わらないであろう。8年制ギムナジウムは、あくまでも傍系の教育システムであり、国内外からの批判、つまり公教育が、社会・経済的背景を基準としてその後の進路に影響を及ぼす選抜をしているとする批判は拭えないが、チェコの教育制度において確かな位置を占め続けるであろう。

多年制ギムナジウムの特質を明らかにするために、入学試験のみならず、教育の実態をより詳細に検討する必要がある。それは次なる課題としたい。

謝辞

本論文は科学研究費助成事業「男子生徒の進路選択に影響を及ぼすジェンダー要因：チェコの中等教育段階に焦点化して」(基盤研究(C)2023-2025)の成果の一つである。

注釈

- 1) 6歳から15歳までが基礎学校であり、初等+前期中等教育段階に当たる。この9年間は義務教育である。15歳から19歳までの4年が後期中等教育段階である。
- 2) チェコ語では *víceleté gymnázium*、英語にすると *multi-year gymnasium* であるので「多年制ギムナジウム」という訳語をあてた。
- 3) TIMSS (Trends in International Mathematical and Science Study) は、算数・数学、理科の到達度を測定する国際調査である。PISA (Program for International Student Assessment) は、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3領域で到達度を測定する国際調査である。
- 4) 科学アカデミー経済研究所、カレル大学教育学部、国家教育基金の共同研究「技能、教育、労働市場の成果の関係：縦断的研究」(2012-2018年)

- 5) 基礎学校9年生の生徒3,758人、ギムナジウム4年生の生徒1,471人を対象とした。
- 6) 出題から一つ例を挙げると、日常的にいかに正しい文法に触れているかが試験対策になることが分かる。「問 次のうち正しい表記のものを選びなさい。
- A) Prodáváme byliné čajové směsi.
B) Prodáváme byliné čajové směsy.
C) Prodáváme bylinné čajové směsi.
D) Prodáváme bylinné čajové směsy.
- (ここではブレンドハーブティーを販売しています。)」この問題では、「ブレンドハーブティー」を目的格に格変化させることが問われている。
- 7) オンラインで実施されるリスニングの試験。
- 8) 数学、物理の授業をフランス語で行う課程であり、中等教育修了資格試験もフランス語で実施する。
- 9) 2023年度の合格実績は、ブルノ工科大学20人、マサリク大学86人(法学12、自然科学14、医学12、農学3、哲学13、教育学6、経済経営学9、情報9、社会学7、スポーツ1)、カレル大学6人(自然科学1、哲学1、社会科学1、理数1、第一医学1、神学1)である。
- 10) 2024年9月に実施したBギムナジウムでの調査より、

引用文献

- Centrum pro zjišťování výsledků vzdělávání. 2024a. Přihlášky na SŠ 2024 nabízené kapacity a počty přihlášek v jednotlivých školách. <https://app.powerbi.com/view?r=eyJrIjoicjZjc4MzI5ZjctYWE2ZS00ZDZjLWE3YTAtMTRmOGZlODk4OTIyIiwidCI6IjE4ZjgyNjAxLTVkYWYtNDBiO04MTk2LTVjMDkwYjFjYjdkMCIsImMiOiJ9> poslední aktualizace 12.03.2024. last inspected 29. 06. 2024.
- Centrum pro zjišťování výsledků vzdělávání. 2024b. Výsledková data k přihláškám na SŠ v roce 2024. <https://prijimacky.cermat.cz/aktuality/aktualita/357-vysledkova-data-k-prihlaskam-na-ss-v-roce-2024> last inspected 29. 06. 2024.
- Český statistický úřad. 2020. Školy a školská zařízení za školní rok 2019/2020. <https://csu.gov.cz/produkty/skoly-a-skolska-zarizeni-skolni-rok-20192020> last inspected 29. 06. 2024.
- Dostálová, J. 2010. Vstup na víceleté gymnázium očima rodičů. Masarykova Univerzita Filozofická Fakulta. Brno (Magisterská diplomová práce).
- Greger, D. 2017. Tisková zpráva o přidáné hodnotě víceletých gymnázií na základně zjištění longitudinálního výzkumu CLoSE. Seminar UVRV 15.12.2017. PedF UL v Praze.
- Gymnázium Matyáše Lercha. 2023a. Plánek GML. <https://www.gml.cz/uploads/planky-GML/plan-gml.svg> last inspected 14. 09. 2024.

- Gymnázium Matyáše Lercha. 2023b. Počty studentů přijatých na vysoké školy. <https://www.gml.cz/prijati-na-vs-pocty> last inspected 14. 09. 2024.
- Gymnázium Matyáše Lercha. 2023c. Rozdělení VŠ podle fakult. <https://www.gml.cz/prijati-na-vs-fakulty> last inspected 14. 09. 2024.
- Gymnázium Voděradská. 2024. Výsledky přijímacího řízení pro školní rok 2024/2025. <https://www.gymvod.cz/soubor/4224> last inspected 25. 06. 2024.
- Holubová, M. 2009. Přechod žáků na víceletá gymnázia. Univerzita Karlova Pedagogická Fakulta. Praha (Magisterská diplomová práce).
- 石倉瑞恵, 2022. チェコの中高等教育においてジェンダーが進路選択に与える影響. 石川県立大学研究紀要. 6. 69-78.
- Nový Amos. 2024. Státní přijímačky z Češtiny pro 5. třídy. <https://www.statniprijimacky.cz/wp-content/uploads/2024/04/prijimacky-osmilet-2024-prvni-termin-cesky-jazyk-zadani.pdf> last inspected 29. 06. 2024.
- Palečková, J, Tomášek, V, Basl, J and Kramplová, I. 2007. Hlavní zjištění výzkumu PISA 2006: Poradí si žáci s přírodními vědami? Ústav pro informace ve vzdělávání. Praha.
- Straková, J. 2010. Přidaná hodnota studia na víceletých gymnáziích ve světle dostupných datových zdrojů. Sociologický časopis/Czech Sociological Review. Akademie věd ČR Sociologický Ústav. Praha. 46 (2). 187-210.
- Sucháček, P. 2014. Spor o víceletá gymnázia: historický kontext a empirická data, *Studia paedagogic.* Masarykova Univerzita. Brno. 19 (3). 139-154.
- Tomášek, V, Basl, J, Kramplová, I, Palečková, J and Pavliková, D. 2008. Výzkum TIMSS 2007. Obstojí čeští žáci v mezinárodní konkurenci? Ústav pro informace ve vzdělávání. Praha.
- Vágnerová, A. 2010. Osmiletá gymnázia-únik nebo příležitost? Univerzita Karlova Fakulta Sociálních Věd. Praha (Magisterská diplomová práce).
- Walterová, E. 2004. Vývoj české školy. In Walterová, E a kol. 2004. Úloha školy v rozvoji vzdělanosti. 1. Paido. Brno. 49-67.
- Walterová, E. 2011. Vývoj primární a nižší sekundární školy v českém kontextu. In Walterová, E a kol. 2011. Dva světy základní školy? Úskalí přechodu z 1. na 2. Stupeň. Karolinum. Praha. 16-51.

Consideration of the Multi-year Gymnasiums in the Czech Republic

: From the Reality of Overheated Entrance Examinations

Mizue ISHIKURA (Liberal Arts Education Center, Ishikawa Prefectural University)

Abstract

The characteristics of multi-year gymnasiums in the Czech Republic are revealed through the reality of the entrance examinations. After the Velvet Revolution, when many schools were reorganized as gymnasiums, many multi-year gymnasiums were established. However, the number of students in multi-year gymnasiums is capped, and the acceptance ratio for eight-year gymnasiums is remarkably high. There is also a marked difference in popularity among schools. Popularity is concentrated in gymnasiums that have some advantages, such as a high rate of students going on to higher education or a significant number of achievements. The key to success in the most popular gymnasiums lies in the social and economic environment of the candidates, as seen in the Czech examination culture and the questions of the entrance examination for the eight-year gymnasiums. The highly homogeneous student body is thought to be the reason for the establishment of unique programs, higher education rates, and other achievements at multi-year gymnasiums.

Keywords: Czech Republic, secondary education, multi-year gymnasium, entrance examination, ratio of successful applicants